

Infant Scientist

赤ちゃん・ちびっこ通信



日頃は「赤ちゃん研究員」にご登録、ご協力をいただき、まことにありがとうございます。お忙しい中、調査室までお越しくくださった保護者の皆さま、ご自宅での調査にご協力いただいた皆さま、まことにありがとうございました。今回は残念ながら予定があわなかった方、また調査の対象年齢の都合で残念ながら調査をお願いできなかった方には、たいへん申し訳ありませんでした。「赤ちゃん研究員」の皆さまのお力添えで、九州大学「赤ちゃん・ちびっこ研究員」には、3月現在でXXXX名の方（ご卒業された方も加えるとこれまで2494名の方）にご登録・ご協力を頂いています。調査を通して得た発見や貴重な情報を、学会で発表したり、論文や文章にまとめたりして、時間はかかりますが「きちんと」お伝えすることをスタッフ一同心がけております。また、その発見や知識が、赤ちゃん・お子さん、保護者の方にご協力いただいたことによって成り立っていることを忘れずに、日々の調査・研究にあたりたいと考えています。

今年度は、下記にご紹介するような調査を行ってまいりました。「赤ちゃん・ちびっこ研究員」に加えて「子ども研究員」（小学校入学～卒業まで）の募集もご案内させていただきます（詳細は「子ども研究員」登録のご継続のお願い（別紙）をご参照ください）。今後ともどうぞよろしくお願いたします！

今年度ご協力いただいた&現在進行中の調査をご紹介します

生後1年における自己顔への感受性の発達 — 類似性の観点から—

担当：新田博司 対象月齢：11～13ヶ月

今回の調査では、生後1歳の赤ちゃんがどの程度正確に自分の顔と他者の顔を弁別できるのかを検討しました。主な調査手続きとして、事前に撮影したお子さんの顔、他のお子さんの顔、そして、その2人の顔を合成した顔、つまり、お子さんに似ている顔を同時に提示しました。その結果、お子さんは自分の顔が顔刺激に含まれる場合、合成顔よりもオリジナルの顔をより長く注視しました。一方で、顔刺激および合成顔に自分の顔が含まれない場合は特定の顔への視覚的な好みは観察されませんでした。本調査の結果から、生後1年にわたる自分の顔への日々の視覚的経験が自分の顔に対する表象の発達に寄与している可能性が示されました。

「援助行動の適切性が幼児のエージェント選択に及ぼす影響についての検討

担当：佐藤優帆 対象月齢：22ヶ月～26ヶ月

この調査では、異なる方法で他者を手伝おうとする2匹のパペットを見たとき、子どもはどのようなパペットを好むのかを検討しました。困っている人に対して手助けが必要な場面で手伝うパペットと、手助けが必要ない場面で手伝うパペットの動画をそれぞれ視聴してもらったのち、その動画に登場したパペットを実際にお子さんの手の届く位置に提示しました。その際「どっちが好き？」と尋ね、触る・指をさすなどの方法で一方のパペットを選択してもらいました。その回答はどちらかのパペットも同様に選択されました。以上の調査から、2歳児は誰かを助けようとする他者を評価する上で、助ける行為自体が重要で、その行動が適切かどうかということあまり重要ではない可能性が示されました。今後、より多くの乳幼児の反応を検討し、さらに発展した研究を行います。

乳幼児の他者特性推測場面における音楽の手がかり可能性について

担当：古屋知聖 対象月齢：18～24カ月

今回の調査では、生後18～24カ月の赤ちゃんが、音楽の雰囲気をもとに他者の優位性を推測するかどうかを検討しました。“強そうな”音楽と“弱そうな”音楽を付随させたキャラクターたちが勝負をするアニメーションを提示しました。その結果、“弱い”音楽が付随したキャラクターが、“強い”音楽が付随したキャラクターに勝ったときに乳児は驚き、その画面をより長い間見続けました。この結果から、赤ちゃんは他者の優位性を判断する際に、音楽の雰囲気を手がかりとする可能性が示されました。

幼児期における「かわいい」概念

担当：笹口伶子 対象年齢：3～4歳

私たちは日常の中で「かわいい」という言葉を、キャラクターや人物など様々なものに対して使用します。これまでの研究から成人が「かわいい」という言葉を使用する際、大きさや色、表情、幼さなどいくつかの要素に関連があることが分かっています。では、幼児は「かわいい」という言葉をどのように認識しているのでしょうか。そこで本研究では大きさ・色・表情・年齢の4つの特徴に注目して2種類のイラストを対提示することで幼児の「かわいい」という言葉に対する認識の枠組みを検討しました。

「お話しているのは誰？」幼児期における間投詞発話の解釈

担当：宇土裕亮 対象年齢：3～5歳

コミュニケーションを行う上で、話し手が誰なのかを考えることは重要です。私たちはその場の状況やその人の特性、話している言葉、その内容などを考慮し、誰が話しているかを（無意識に）考えながらコミュニケーションを取っています。その中でも思わず言う言葉として、間投詞「あっ」、「うわっ」、「えい」といった言葉とそれに関連する状況における話し手の推測の発達を調査しました。調査は音声の流れる6種類の動画を見てもらい、そこに登場する2種類の動物やキャラクターのうち、動画中に喋っていたのは誰かを答えてもらいました。その結果、4歳ごろまでには、「えい」や「あっ」「うわっ」といった間投詞を区別して捉え、「誰が喋っていたのか」の判断を変えるようになってくることがわかりました。今回調査した間投詞は、『意図』や『驚き』といった「こころ」に関係する間投詞であり、今後、他者の「こころ」の理解の発達について、間投詞からより深い研究を行うことができると考えています。

知識状態認知に基づくインフォーマントの選択とその発達

担当：若狭巧望 対象年齢：4～5歳

私達は何かわからないものがあつたとき、“初めて会った人”より“親しい人”から、“物知りじゃない人”より“物知りな人”から学ぼうとします。また、子どもであっても、誰から学ぶかを選択していることを示す研究もあります。では、同じ知識を共有する人と、新しい知識を持つ人では、どちらかが学ぼうとするのでしょうか。今回の調査では、教えてくれる人が持つ知識に注目し、「まだ知らないことを教える人」と「すでに知っていることを教える人」ではどちらから学ぼうとするのかを調査いたしました。調査の結果、4歳から5歳にかけて、「まだ知らないことを教えてくれた人」に、自分がまだ知らないブロックの名前を聞こうとするようになることがわかりました。このころに、同じ知識を共有している人よりも、異なる知識を持っている人の方が、新しいものへの知識があるかもしれないと考えるように変化している可能性があります。

現在進行中の赤ちゃん・ちびっこ研究（来年度以降報告予定）

- 乳幼児期における抽象化された表情の理解（担当：宇土裕亮 対象：3歳児）
- 乳幼児期における自己の顔と名前の関連（担当：新田博司 対象：2歳児）
- 乳幼児期における自己顔の認知（担当：新田博司 対象：2歳児）

研究室からのお知らせ

- 2019年度より、赤ちゃんラボ（調査室）が九州大学の太宰府地区に移転しました。

〒815-0032

福岡県福岡市南区塩原 4-9-1 九州大学 太宰府地区レンタルラボ
アドバンスデザインプロジェクト棟 4階共同研究室-2

- 2017年度より、小学校に入学されるお子さんのいらっしゃるご家庭には「子ども研究員」登録のご継続のお願い（別紙）を送付しております。引き続きのご理解、ご協力をお願い申し上げます。
- お引越しなどで登録内容（電話番号・住所など）に変更が生じた場合は、ご連絡いただければ幸いです。また、遠方へのお引越し等で登録の解除を希望される場合は、その旨をご一報いただければ大変ありがたいです。こちらで変更の手続きをさせていただきます。

九州大学 人間環境学研究院・教育学部 発達心理学講座

橋彌 和秀（はしや かずひで）准教授

〒819-0395 福岡市西区元岡 744

イーストゾーン1号館 E-A306

TEL & FAX (092) 802-5170

Email: babykyushu@yahoo.co.jp

HP: <http://www.babykyushu.org>

